

## 平成 30 (2018) 年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

2018年は明治150年を記念するイベントで日本中が賑わいました。公文書室の親組織である博物館には我が国の産業技術の発展を辿ることができる貴重な機械類が保存されており、それらは国立科学博物館の明治150年記念「日本を変えた千の技術博」などに貸出され(18点も)、多くの人の心を動かしたようです。文書類に関しては、関東大震災で焼失し、残念ながら余り貢献できませんでした。◆2018年は本学の創設者の一人である手島精一(1850~1918)の没後100年でもありましたので、ご家族から以前にご寄贈いただいた資料の全面公開に向けた準備を始めました。◆部局回りや研修会や刊行物等を通して、公文書室の認知度が高まり、頼りにされる場面が増えてきたのは嬉しい限りです。



① 重慶大学文書館スタッフとの打ち合わせ(百年記念館2F会議室)  
左から席順に: Zhu Wenwan, Quian Feng, Yang Yan, Yu Ling, 通訳(東大院生、重慶大出身)、道家達将、広瀬茂久、渡辺菊乃。撮影: 桑原千佳。

## 1. メンバーの交代

2018年4月から渡辺菊乃が加わりました。渡辺は16年にわたって国文学研究資料館に勤めた経験があり強力な援軍となっています。これまで資史料館・公文書室を切り盛りしていた渋谷真理子は5月の誕生日で再雇用期間が終了し、いったん退職しましたが、2019年1月から事務支援員として復帰しています。6月に退職した山田瑞絵(主として目録やポスター等の作成を担当)の後任として8月から桑原千佳が加わり、山田の仕事を引き継ぎ、目録作成の傍ら「今月の一枚」(ポスター)の広報に努めています。今月の一枚は百年記念館1F、本館3Fの資史料館前、及び博物館のfacebookでご覧になれます。東日本大震災から8年を経た2019年3月11日には、珍しい二重の虹(double rainbow)が架かりましたので号外を出しました。

## 2. 重慶大学調査団の訪問

2018年7月6日に中国の重慶大学からemailが届きました。重慶大学では創立90周年を迎えるにあたり、創立者が日本で受けた高等教育の足跡を調査したいので、8月に関係部局を訪問したいという趣旨でした。依頼状は先ず重慶大学の文書館(档案館)から本学中国オフィス職員の王亜民チーフ・リエゾン・オフィサー宛に発信され(もちろん、前もって電話での説明があったそうです)、日本語訳を付けた上で、王チーフから本学の国際連携課企画・調整グループの守田事務職員に送られ、最終的に私たちのところに転送されてきたわけです。

本学の卒業生が重慶大学の創設に関わったとなると私たちの血が騒ぎます。∴本学への留学経験者が設立に関わった例として、東南大学建築学院(中華人民共和国江蘇省南京市)が有名で、今日に至るまで(戦中の一時期を除き)本学の建築系と密接な関係が維持されてきていますが、重慶大学のケースは知られていなかったからです。先方が調査対象として挙げた4名(沈懋徳、呂子方、李祚膏、陳伯齊)の内、少なくとも1名は「東京高等工業学校一覧」で在籍が確認できましたので、訪問調査に喜んで協力する旨の返信をしました。後は、英語で直接やり取りすることになり、先方が日本領事館でビザを取得する際に必要な書類(招聘理由書、滞在日程、来訪者の身元保証書、及び受入れ教員の在職証明書)を急いで準備し、何とか8月22日の訪問が実現しました。

特別予科(1906〔明治39〕～)及び特設予科(1926〔大正15〕～)の入学願書や学籍簿などを調べたところ、李祚膏さん(1896生、1915〔大正4〕年機械科特別予科入学、1919〔大正8〕年機械科卒)と陳伯齊さん(1903～1973、建築)に関しては在籍期間が確認できましたが、沈懋徳さん(1893～1932、物理学・天文学)と呂子方さん(1895～1964、物理)に関しては記録を見つけることができませんでした。古い学籍簿には卒業者しか載っていませんので、途中で帰国したかあるいは選科生(現在の科目履修生)として学んだのではないかと思います。

本学における留学生の歴史については、元留学生セン

ター（現社会理工学院融合理工学系）の佐藤由利子准教授と村松晶子特別研究員が精力的に研究中です。最初の留学生は1896年〔明治29〕に入学した6名（朝鮮半島出身）で、外国人学生のための臨時措置として「特別科」が設けられました。その後の留学生の増加に対応して、1901年〔明治34〕には特別科に代わり「選科生（科目履修生）制度」を導入し、さらに日本人と同じ本科生を希望する留学生の増加に伴い、1906年〔明治39〕には、日本語及び理数科目の基礎を学ぶ「特別予科」課程を修了した者は、「特別本科」に入学できるように規定が改められました。留学生の受け入れを積極的に進めた手島精一校長の姿勢は今日に受け継がれています。

### 3. 留学生向けの講義 Tokyo Tech Winter Program

国際教育推進機構が主催する短期の留学生受入れプログラム（Tokyo Tech サマープログラム & ウィンタープログラム；世話教員：齋藤宏文 准教授）が人気を博しています。オリエンテーションを兼ねた最初の講義では、本学の歴史と主要な発明発見について概説することになっているのですが、本年度は私（広瀬）が担当しました。英語での70分程度の説明、かつ原稿を読んではいけなくてあって、準備は大変でしたが、手伝いできたことを大変嬉しく思いました。博物館・資料館・公文書室を頼りにしてくれる人を増やすべく努力を続けたいと思った次第です。

私が手伝った Winter Program は、国際連携を深める目的で11月末から2月初めにかけて開かれる「研究室での研究」に重点を置いた10週間のプログラムです。この時期に長期休暇（夏休み）があるのは南半球ですので、参加者18名の所属はメルボルン大学、オーストラリア国立大学、シドニー大学、ニューサウスウェールズ大学が主でした。このプログラムは、文科省のスーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業の一環として、世界のトップレベルの大学との学生交流を推進する目的で計画されたもので、本学の場合は「研究室でのリサーチ・プロジェクトに従事できる」ことを売りにしていますが、留学生が日本の技術や文化への理解を深めるためのイベント（先端企業見学・日本文化体験・東工大生との交流会など）も組み込まれ魅力的となっています。



② ウィンタープログラム参加者（本館時計台の下にて、2018年12月5日）。前列左から2番目が広瀬室長、右端が亀井博物館副館長。



③ 展示会「特定歴史公文書になった入試問題」の様子。宣伝文句：“めったに見ることのできない問題をお見せします”。

### 4. 古い入試問題の展示会

学務部から公文書室に、古い入試問題が移管されたのを契機に、「特定歴史公文書になった入試問題展」を開催しました（8/10、10/6～10/26）。初日はオープンキャンパスと2回目は工大祭（10/6、7）と重なるようにしましたので、多くの来館者で賑わいました。入学試験問題も、科学技術ほどではありませんが、大きく変わっていることに驚かされたことでしょうか。歳月を経てセピア色になった入試問題は私たちに多くのことを語りかけてくれ、当時の受験生と出題者の格闘がよみがえるようでした。

本学の本拠地だった蔵前の地を離れて最初に入学試験が行われたのは1924年（今から94年前の大正13年）でした。前年の関東大震災で隅田川のほとり蔵前の地にあった校舎が全焼し、大岡山に移転することになったからです。校舎と共に、図書や文書類の多くも焼失しましたので、蔵前時代の入学試験問題は残っていないようです。このように、大正13~14年は本学の歴史にとって大きな変革点でしたので、展示ではそのことについても簡単に紹介しました。概要を資料館「とっておきメモ帳」No. 12にまとめましたので、ご覧ください：[http://www.cent.titech.ac.jp/Publication\\_Archives/pg701.html](http://www.cent.titech.ac.jp/Publication_Archives/pg701.html)。

### 5. 独日協会連合会 名誉理事長の訪問

日本とドイツの交流に尽力してこられた独日協会連合会のフォンドラン（Ruprecht Vondran）名誉会長が10月3日に来訪されました。ワグネル博士の日本への貢献について聞き取り調査をするためです。フォンドラン氏はワグネル博士と同じハノーファー実業学校とゲッチンゲン大学の卒業生で、ドイツ鉄鋼経済連盟会長（1988-2000）、ドイツ連邦議会議員（1987-1993）、日独産業協会会長（1986-2016）、及び独日協会連合会会長（2006-2018）などを歴任した方です。大先輩にあたるワグネル博士が東工大の創立に尽力し、日本の工業教育に多大な貢献をしたことがドイツではほとんど知られていないのは非常に残念なので、帰国後、宣伝に努めたいとのことでした。その日の夕刻には、ドイツ大使館で開かれる「ドイツ再統一記念パーティー（再統一は1990年10月3日）」に出席予定とのことでした。

平成 30 年度（2018）に受け入れた特定歴史公文書のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
昭和 62 年度規則制定改廃 1/2	庶務部庶務課企画調査掛
昭和 62 年度規則制定改廃 2/2	庶務部庶務課企画調査掛
企画室 将来構想検討班会議①	総務部総務課総合企画グループ
企画室 将来構想検討班会議②	総務課総合企画グループ
プロダクティブリーダー養成機構 提案書 課題	総務部総務課総合企画グループ
法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム	総務部総務課総合企画係
平成 9 年度学校基本調査	総務部広報・社会連携課 広報・社会連携グループ
平成 19 年度学校基本調査	総務部評価・広報課 広報・社会連携係
平成 22 年度～平成 24 年度 130 年統括本部会合	130 年事業事務室 事業運営グループ
平成 20 年度収入・支出概算要求に関する文書	財務部主計課予算係
震災関係（平成 24 年度）	学務部学生支援課支援企画グループ
震災ボランティア（平成 24 年度）	学務部学生支援課支援企画グループ
東日本大震災被災学生奨学金申請・採用関係（平成 24 年）	学務部学生支援課経済支援グループ
赴日予備教育 1	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係
赴日予備教育 2	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係
赴日予備教育 3	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係
VBL・INC 運営委員会（平成 19 年度）	研究協力部産学連携課連携管理係
昭和 60 年度工学部教授会	工学部庶務掛
昭和 61 年度工学部教授会 1	工学部庶務掛
昭和 61 年度工学部教授会 2	工学部庶務掛
昭和 62 年度工学部教授会 1	工学部庶務掛
昭和 62 年度工学部教授会 2	工学部庶務掛
昭和 62 年度国立学校施設実態調査報告書 1/2	施設部企画課企画掛
昭和 62 年度国立学校施設実態調査報告書 2/2	施設部企画課企画掛
昭和 14 年度 概算要求増減額事項別参照書	1939 年度（博物館）*
昭和 15 年度 概算要求増減額事項別参照書	1940 年度（博物館）
概算書類作成参考書 昭和十年度	板谷（博物館）

法人文書ファイル名	作成又は取得者
夏休み善用に関する感想（一年）	1939 年度（博物館）
夏休み善用に関する感想（二年）	1939 年度（博物館）
夏休み善用に関する感想（三年）	1939 年度（博物館）
官庁用電話機接続申請承認二関スル件（附同一構内認定件）	用度掛 1934 年度
鎌倉・伊東ノ電話ニ関スル書類	1941 年度（博物館）
物品請求簿 新研究室 昭和七年九月	1932 年度（博物館）
各大学照会ニ対スル回答綴 昭和五年六月	1930 年度（博物館）
徴集延期用在学証明書下附願綴 昭和三年度	1928 年度（博物館）
就職関係書類 昭和二十二年九月	1947 年度（博物館）
一年志願兵在学証明書下附願綴 昭和二年七月	1927 年度（博物館）
昭和九年度校別入学者人員表	1934 年度
料理献立原価調 自昭和十一年十二月	工友会食堂部 1936 年度
教務関係資料 昭和二～五年	1927 年度（博物館）
光亜会誌 昭和四年四月以降	1929 年度（博物館）
昭和五年実施 大陸見学旅行記録	1930 年度（博物館）
備人名簿 昭和十一年十二月	東京工業大学工友会

\*（博物館）：博物館に未整理のまま保存されていた古い資料



④ 平成 30 年度（2018）に受け入れた「特定歴史公文書等」の外観。

## 公文書室 業務日誌 (抄)

年	月	日	業務内容
平成 30 (2018)	4	12	「発掘！東工大の研究と社会貢献」第 5 回『タンパク質の高性能分離法 (SDS-PAGE)』発行
	5	30	法人文書ファイル管理簿等の作成についての説明会
	6	7	～ 7 月 24 日◆各部署と保存期間満了法人文書の移管について協議
		7	～ 8 日◆全国公文書館長会議
		29	本学教員・特別研究員 来室 (戦前～戦後初期の留学生史料探索), 継続: 7/10, 11, 18, 1/15, 24
	8	1	桑原事務支援員 着任
		2	京都大学教員 来訪 (特定歴史公文書等閲覧)
		10	とっておきメモ帳 No. 12 「特定歴史公文書等になった現存最古の入試問題」発行
		22	重慶アーカイブズセンターから 5 名来館 (明治～大正時代の中国からの留学生調査)
		23	東京大学文書館を見学
		29	～ 30 日◆日本社会事業大学教員 来訪 (手島精一関連資料の閲覧), 継続: 10/30
		30	大阪市立大学教員 来訪 (手島精一関連資料の閲覧)
	10	6	～ 26 日◆大正 13 年 14 年の入試問題展示会
	11	27	中堅職員研修 (48 名) 資料館書庫及び公文書室見学
12	28	近隣 (奥沢) の歴史家来訪 (特定歴史公文書等閲覧), 継続: 1/18	
平成 31 (2019)	1	8	渋谷事務支援員 着任
		10	国学院大学特別研究員 来訪 (昭和初期の受験生に関する資料探索) 継続中
		16	主計課西倉庫の法人文書整理
		21	本学教員来室 (入試問題閲覧, 大正 13 年～昭和 25 年)
		25	京都市立芸術大学教員・東京藝術大学院生 来訪 (ワグネル関連資料調査)
	2	13	東京大学経済学部資料室を見学
		23	学習院大学アーカイブズ学専攻学生来訪 (見学)
		28	博物館 資史料等審査部会
	3	29	とっておきメモ帳 No. 13 「戦地をくぐりぬけたボート部のメダル」発行

### 寄贈資料一覧 & 資料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました (2018 年 4 月から 2019 年 3 月受領分)。

寄贈者	資料名
羽田康子	濱本芳友 (M38 機) 関係資料 (ノート etc.)
羽田 栄	羽田富三 (S3 応化) 関係資料 (自分史)
森 和男	学生運動のピラ綴り
藤井理行・宮崎理彦	パタゴニア遠征隊関係資料
佐藤年緒	社会工学科 50 周年記念誌 (2019 年 3 月発行) 他
末包哲也・加藤雅治	蔵前柔道会関係資料 (会誌など)
藤野公子	藤野弘二 (S19 応化) 関係資料 (冬桜寄贈)
松田克子	石井茂助関係資料 (アルバムなど)

寄贈者	資料名
小酒英範	東京工業大学端艇部 100 年史
伊藤高昭	手島精一資料, 「科学史の諸断面」他
水落範子	中澤三知彦 - 旅行会記録冊子
宮田 律	「イスラム 10 のなぞ」他
荒井滋久	COE21 「フォトニクスナノデバイス集積工学」平成 18 年度最終成果報告書 他
小林隆夫	総合理工学研究科 外部評価報告書 平成 15 年 1 月 他
施設運営部	大岡山南 5 号館, 6 号館設計図 (清家清)
畑中英二	塩田力蔵 「陶磁工芸研究」PDF

◆ 公文書室入口 (本館 3 階奥) にパンフレット棚を設置し, 「発掘！東工大の研究と社会貢献」, 「資料館 とっ ておきメモ帳」を配布しています。百年記念館 1 階と合わせてご利用下さい。

東京工業大学公文書室だより 第 4 号 2019 年 3 月 31 日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資料館部門公文書室

152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1, E3-12 TEL 03-5734-3347

E-mail [centshiryu@jim.titech.ac.jp](mailto:centshiryu@jim.titech.ac.jp) URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>